

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 木洩れ陽)

事業所番号	0670101674		
法人名	オークランドホーム株式会社		
事業所名	オークランドホーム 木洩れ陽		
所在地	山形県山形市南原町三丁目17-8		
自己評価作成日	平成21年7月5日	開設年月日	平成16年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 季節を目で、耳で、鼻で、口で、肌で感じることができる、まるで自分が育った場所のようなホームです。
- 安全・安心を見守る職員の前向きな学習態度が自慢です。
- フリー勤務を利用しての外出は、一人ひとりとゆっくり過せる一緒の時間を共有できます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年7月30日	評価結果決定日	平成21年8月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「買い物、散歩、ドライブ、回転寿司、美術館、映画館、コンサートなどに、重度の利用者も出かけ、楽しめること」「尿意を感じている利用者の動き方に着目した排泄誘導により、日中はできるだけオムツを使わずに過ごせること」「入浴の曜日や時間を決めずにいつでも入浴することができ、就寝前の足浴も受けられること」など、認知症が進行した方、褥瘡がある方、これまで経口摂取が難しかった方に対しても、「ダメと言わないケア」「あきらめないケア」に取り組んでいます。また、認知症ケア学会主催の研修を始め、「褥瘡セミナー」「ターミナルケア」「リスクマネジメント」などの実践的な研修への参加、職員の学びや利用者との関わり方を個別に決められる「フリー勤務日」など、利用者へのケアを支え、担っていく人材育成にも力を入れています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について毎年皆で話し合い意識付けをしている。理念に基づいた一日を送り、サービスの質をよりよいケアができるよう努力している。	地域密着型サービスとしての意義が理解されており、日々の暮らしやサービス提供の中でも理念を意識し、「その人らしさ」を大切にしながら、利用者のそばに寄りそう支援ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、積極的に挨拶をし、行事参加している。近所での買物、散歩、ごみ拾い等で交流している。	地域の盆踊りへの参加や子供御輿の受入れ、また、近所への買い物や散歩時のゴミ拾いの際の挨拶などを通して、地域の一員として交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所5年目ということもあり、地域の人にも大分理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を積み重ねることで、質問、要望等活発に言い合える場となってきている。また、事業所からのお願いにも具体的に応えてくれる事がたくさんあった。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、その会議記録等は市の担当者にも提出されている。また、外部評価、制度改正、ホームに来てもらえるボランティアや団体等についての相談などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員を受け入れる予定。協力関係作りに努力している。	運営推進会議の報告や制度改正についての質問、また、これから予定されている介護相談員の受け入れの相談など、市の担当者や連携しながら、利用者サービスの向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関等に鍵はかけていない。家族等からの身体拘束の要望があった時も、心身へのリスクについて十分話し合いをしている。	「外に出たい」という利用者の気持ちを先取りするような形で、利用者と職員が頻繁に出かける取り組みが行われている。また、ホーム内でも常に利用者のそばに職員がいるようにしているため、玄関に鍵はかけられていない。家族から「拘束の要望」が出された場合でも、「拘束しないケア」について検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修での学習会への参加し、事業所へフィードバックしている。不適切なケアの時点で、速やかに話し合える意識を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に学習している。学習会の内容に取り入れ、全員の理解を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学してもらうとともに、十分に説明を行い、納得した上で手続きを進めている。長期にわたる利用の場合の改定の際にも説明、話し合いを行ない確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に面会にきてくれる家族には、意見や要望を引き出す努力、場面を作り、出された意見等は前向きに活かせるよう話し合える時間を大切にしている。	家族の面会も多く、家族の意見や要望を出してもらえる関係づくりができており、家族から出された意見や要望について検討され、利用者サービスの向上に活かすようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年アンケートをとり、率直な意見、提案を聞いている。また、その都度解決に向かい、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	協力努力に努める。個々の学習意欲に合わせて資格をとれるように指導している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内部の研修に重点を置きつつ、外部への研修にも積極的に参加している。	年間の研修計画があり、「認知症ケア学会主催の研修」「褥瘡セミナー」などの研修に参加している。また、職員が自由に学んだり、利用者と関わりのもてる「フリー勤務日」を毎月設けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他事業所との交換研修を通して内部には気づけない事を学ぶ機会を作っている。相互の情報交換等により、質向上になっている。</p>	<p>市内および県内のグループホーム連絡会に参加して、ネットワークづくり、情報交換、交換実習等が行われている。また、その際には「何を学んでくるか」という目的意識をもって参加されている。</p>		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人や家族等に入所時間聞き取りの中でポイントを絞り込み傾聴している。面談での情報で把握できない事を体験入所してもらい、関係づくりに活かしている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族等の立場に立って、入所に至るまでの話をしっかり受け止めるよう努めている。信頼できるまでには時間がかかるのであせらない。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族等の現状や要望をもとに実行できるサービスを他のサービス利用の調整を含めて対応している。</p>			
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である事を念頭におき、本人を知ろうとする姿勢で、互いに学び合う気持ちで接している。</p>			
19		<p>○本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の生活を共に支援していく仲間として、時には帰宅や外出の協力をしてもらっている。疎遠がちな家族には、状況報告書を通して、アプローチし、続けている。</p>			
20		<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容院に家族とともに出かけたりできるよう、あるいは友人の訪問時などにもスムーズに運ぶような役割をしている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支えあう場面を作りながら、声がけ・見守っている。 性格の合わない利用者間に配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方(家族等)からの連絡等いただける状況にある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員一人ひとりの思いや希望について、感じる努力をしている。 あるいは、家族等からの情報も重要としている。	たとえ時間がかかったとしても、利用者が何をどうしたいのか把握するようにしており、「ダメと言わないケア」や「手をかけすぎないケア」を通して、一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の利用で家族等からの情報をより解かりやすくまとめ、これまでの暮らしを捉え、これからは積み重ねていけるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりとゆっくり関わることで、本人のできる力、分かる力を暮らしの中で発見して、記録し、共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成に至るまでには、全員で、定期的・臨時的にアセスメント・モニタリングをくりかえし、見直し、家族等の意見を取り入れた手順で進行している。	本人、家族の希望や意見を確認し、医師や看護師の意見等も踏まえながら、職員全員で介護計画の作成と点検に取り組まれている。また、ケアプランの中にある一つ一つの支援についての実施状況を毎日記録し、3ヶ月毎に行う定期的な見直しの際に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、本人の目線、職員の気づきを大事に記入している。 また、注意が必要なケースにおいては、別紙を利用し、細かなケアで状況を把握している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報を得ながら、幅広い地域資源が活用できるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が家族等の支援により、なじみの医師による継続的な医療を受けている方もいる。また、皮膚科など、専門医の往診を受けている方もいる。往診・緊急時の対応にも協力を願っている。	家族が付き添うかかりつけ医への受診、また、ホーム看護師が付き添う近隣や専門の医療機関への受診が可能であり、通院と往診も組み合わせた適切な受診が支援されている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早い段階での体調不良や異常を看護職員に報告、相談し、適切な受診や看護できるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等にも説明・相談しながら心身の情報や介護についての情報を提供している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等の意向を最大限に考慮した上で職員の不安心・ストレスを学習し、見極めながら、職員全員で取り組む体制づくりができている。	重度化した場合の指針、看取りに関する指針が作成されており、家族への内容の説明や確認と同意書の取り交わしが行われている。また、個々の看取りの内容に応じた職員間の話し合いや検討も行われ、全員で方針を共有できるように取り組まれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員のアドバイスをいただきながら、マニュアルに書き足している。 勉強会も行なっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員にアドバイスを受け、火災については「おこさない」を合言葉に万が一を想定し、訓練を行なっている。 避難物品も備えている。	消防署の協力も得ながら、災害発生を想定した訓練が年2回実施されており、非常持ち出し物品や備蓄品も備えている。また、夜間の災害発生を想定した訓練にも取り組みたいと考えている。	夜間の災害発生を想定した訓練、また、運営推進会議等も活用しながら、地域との協力体制をより確かなものにしていく取り組みについても期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩、あるいは、将来の自分を想像しながら、行為・行動、言葉使いには気をつけている。	日々の利用者との対応について、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように対応されており、職員の言葉かけや対応で気づいたことがあれば、職員の経験年数や個性にも配慮して、必要な助言や話し合いがなされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が自然に出せるような声かけを自分で決めることができる時間を待つよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や気分に合わせて、外出・外食に出かけたりし、気分転換など図っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、個別に支援している。 美容室での散髪、外出しの化粧を試みたり、楽しめている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものが似ているので、行事、誕生会などで全員に喜ばれている。できる力をフル活動しながら、食事をするまでのプロセスを楽しんでいる。	季節の食材を取り入れながら、利用者の好みやスーパーの広告を参考に献立を立て、買い出しやオカズ作りは利用者と一緒に進められている。また、管理栄養士による献立の点検、重度の利用者を含めた外食支援も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが片寄らないように注意している。水分補給にも十分気をつけ、なるべく地元で取れた野菜を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、必ず、歯を磨き、うがい液、入れ歯洗浄剤を使用し、口臭を防いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、自力排泄できるよう支援している。車椅子利用者でも、オムツ使用していない。	「尿意を感じている利用者の動き方」にも着目しながら、個々に合わせた排泄誘導が行われており、重度の方であっても、日中はできるだけオムツを使用せずに過ごせるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を利用し、食材・水分・運動を基本としているが、必要に応じて下剤を服用し、なるべく自力排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めてはいない。心身の状態、希望に応じて行なっている。	入浴の曜日や時間は決められておらず、午前・午後・夜間の入浴、毎日の入浴も可能である。また、就寝前の足浴は、職員と会話を交わしながら毎日行われており、熟睡にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間を邪魔しないよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬を理解・管理している。服薬確認を必ず行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日ごとに行事を相談し、利用者個別に出かけたり、全員参加で協働したり、楽しんでもらえていると思っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい利用者とは買物、遠方へのドライブ等で出かける機会が多い。 お弁当開き、ファーストフードへの食事等工夫している。	天候や体調に配慮しながら、スーパーやコンビニへの買い物、散歩、ドライブ、回転寿司、美術館、映画館などに、重度の利用者も含め、外出できるような支援が行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の会計時に支払いができるよう財布を渡しているが、常時、お金を所持管理できる利用者はいない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の希望でいつでもできるようにしている。 返信が書けるよう補助している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を通して季節が感じられる共有空間があると思う。 また、手作りの飾り物や生花のある場を工夫して、心の休息を図っている。	観葉植物や庭木の緑が多く、木の温もりも感じられる民家改築型の和風造りのホームであり、日当たりに配慮して、冬と夏とで食堂用テーブルの位置を変える工夫もなされている。また、落ち着いて過ごせる畳スペース、すぐに腰掛けられるソファや椅子の配置など、安心できる居心地のよい共用空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の個々に居心地の良い場所を持っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物を持ち込んでいる方、家族の写真を飾られている方等、落ち着ける居室にしている。	フローリングと畳の部屋があり、それぞれの特徴や雰囲気を生かした住みやすい工夫がなされ、家族やペットの写真を飾ったり、馴染みの物を持ち込んだりすることができている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて、手すり等で、自力・自立に役立っている。			